

【所属名：総務部 財政課】

【会議名：令和6年度第1回入札監視委員会】

会 議 録

作成日 令和6年5月31日

日	令和6年5月28日	時間	13:30～14:55	場所	市役所2階 203.204 会議室
件名	(議題) 発注状況について 抽出案件の審議について				
出席者	【委員】 沢田克己(委員長)、保科正晴、池田隆明(オンライン)、小村 隆、高橋 登 【事務局】 総務部 大嶋部長 財政課 猪又課長、塚田課長補佐、佐藤検査監、井伊主査 【担当課】 ガス水道局 鍋島係長 建設課 前山係長 農林水産課 丸山係長 こども課 田代課長補佐 生涯学習課 須沢係長				
	傍聴者定員	一人		傍聴者数	2人

会議要旨

1	開 会
2	総務部長あいさつ
3	報 告 事務局 ・資料No.1 から 5 について説明。 委 員 ・5 年度の建築一式が 4 件しかないのは何か特別な理由があったのか。 事務局 ・特別な理由はなく、かねてからの計画に基づき発注され、昨年度についてはたまたま少なかったと認識している。 委 員 ・来年、再来年の建築一式工事の発注予定はどの程度あるのか。 事務局 ・当年度の発注予定はホームページでも公開しているが、各課では計画的に発注を検討していると考えている。
4	審 議 委員長 ・今回の審議案件について令和5年7月から10月の発注案件のうち、小村委員から選んでいただいた。案件の審議は1件ずつ行う。事務局の概要説明の後、委員から意見、質問をいただく形で進めていきたい。 【No.1-1、1-2】 事務局 ・【工事概要、入札状況を説明】抽出された理由としては、いずれも2者が応札したが再入札では1者が辞退し、同一業者が落札したことによる。 委 員 ・どちらの業者の事業規模が大きいのか。 事務局 ・落札業者の方が大きい。 委 員 ・おおよその設計金額はわかりそうなものであるが、最初に高めの金額で応札し、再入札で1者が辞退してしまうのは不自然な感じがする。思い当たることはなに

かあるか。

- 事務局 ・建設業者は利益がないような工事には昨今は参加しないと聞いている。利益が出ないと判断され、2回目は辞退されたものと考えている。
- 委 員 ・次回から一般管理費など工事の項目ごとを資料に追加してほしい。それにより比較できる。
- 委 員 ・1件目を落札できなかった業者が2件目の落札をねらうのが自然だと思うが、利益が出ないと判断したから辞退した、という認識でよいのか。
- 事務局 ・そのように受け止めている。
- 委 員 ・青海中、青海小の機械設備の設置業者は今回の落札業者か。
- 事務局 ・その通りである。
- 委 員 ・パッケージエアコンは機械の仕入れ価格で金額が決まってしまうので、小さい会社は手が出しにくい。利益が出ないと感じたから辞退したと感じた。

【No.2－1、2－2】

- 事務局 【工事概要、入札状況を説明】抽出理由は、1億円を超える高額案件であるのに1者しか応札がない上に、落札率が高いためである。
- 委 員 ・陸上競技場と浄化センターの元々の工事を行った業者は今回と同じか。
- 事務局 ・陸上競技場は同じ業者である。
- 事務局 ・浄化センターは、建設工事を日本下水道事業団に委託し、設備はプラントメーカーである三菱電機が受託して工事をしている。
- 委 員 ・2－2の工事は特殊な工事か、落札した会社しかできない工事か。
- 事務局 ・電気設備を入れ替える工事であり、市内業者の中でも今回の落札業者は同規模の工事を多数受注している業者である。技術者もいることから市内の他の電気業者より精通していると考ええる。
- 委 員 ・2－1は1億円を超える工事であり、A級業者が12者もあるのに1者しか参加が無いのは不自然な感じがする。他の業者より抜きんでたものがあるのか。
- 事務局 ・前の整備工事の施工業者であるということ、特殊性があることからノウハウの部分で他より精通しているから応札したのではないかと推測している。
- 委 員 ・1億円を超える契約なので、地理的な条件は市外に広げてよいのではないかと。例えば上越市までとしてもよいと思う。
- 事務局 ・市内業者の育成ということもあり、原則市内としている。今回の工事では特殊性はあるが市内でも複数の登録業者があるため、まずは市内とした。参加者や応札者がいないような場合は、再度公告する際に市外まで範囲を広げるなど段階的に行っている。
- 委 員 ・応札者が1者の場合、入札を自動的に無効にしている自治体もある。ぜひ複数者、2者以上になるよう努めてほしい。
- 委 員 ・2－1の工事について、メインの工事内容であるウレタン舗装について、市内での他の発注実績があればおしえてほしい。
- 事務局 ・ここ2、3年ではこの工事以外では思い当たらない。
- 委 員 ・恐らく請け負った会社はほとんど下請に出すのではないかと。1億円を超える工事なので、発注前に別のやり方で出せる方法はないか、検討してもよいのではないかと。

か。2-2の工事は機器の入れ替えだけではなく、ソフトや通信の関係から最初のメーカーの製品でないと繋がらない。市内の業者が入れるような仕組みを考える必要があるのではないかと考える。

事務局 ・市内業者の育成や受注を第一として考えてきたが、委員長の指摘にあるとおり、競争性、専門性を踏まえた対応を検討する時期に来ていると考える。

委 員 ・市内の業者を優先したいことは理解できるが、一般市民やほかの税を納める事業者もいるので、税金が活かされる方法もできればよいと思う。

委 員 ・類似案件での入札状況はどうか。

事務局 ・詳しい状況は手元に資料はないが、浄化センターやほかの処理場の改築工事を行ってきた中で、当初に設備を担当した会社が受注していると思われる。設備を半分入れ替えるという改修ではどうしても既存メーカーと仕事をしている業者が受注していると思われる。

委 員 ・入札の方法を変えるなどして幅広い会社が落札できるような仕組みに改善した方がよいと感じた。

委 員 ・今回の抽出案件の中では、浄化センター関連工事で2-2工事と同じ会社が落札している。金額は大きくないが、仕様書発注でも落札している。何か関係はあるものか。

事務局 ・仕様書発注では参考見積を徴していることもあり、応札していると考えられる。また、2-2の工事に関しては、工期が1年半と長く、その間、技術者を1名拘束することから、それだけの職員を配置しなければ対応できない。落札業者は、過去から浄化センターの様々な設備の修繕を手掛けていることから、その点でも強みがあったのではないかと考えられる。

【No.3】

事務局 ・【工事概要、入札状況を説明】抽出理由は、最低制限価格と同額の業者が落札したが、他の5者の入札額が同額のものもあり最大でも4万円差であるのに対し、落札額は5者の最小額と比較しても21万円も低いため。

委 員 ・最低制限価格の決定は市が事前に決めておく形をまだとっているか。変動式の制度にした方がよいと話をしたかと思うが、検討されたか。

事務局 ・再度委員長から提言をいただいたことから、改めて検討を進めたい。

委 員 ・今回の測定の距離は50mとなっているが、長いスパンで発注する余地はなかったものか。発注のための準備など、人件費がかかることは検討したか。

事務局 ・小学校に続く通学路の部分改良工事に関する測定で、学校に近接する場所であり、プールや水路もあることから、専門の業者による測定として発注した。

委 員 ・地形や該当する施設などの情報は積算に反映されるか。

事務局 ・地形などの条件により補正率がかかる。

【No.4-1、4-2】

事務局 ・【工事概要、入札状況を説明】抽出理由は、No.4-1は6者が応札したが1者が辞退し1者が失格となり、No.4-2は8者が応札したが2者が失格となっているが、両案件とも同一の3者が最低制限価格と同額で応札したことから、くじを実施しており、最終的に同一業者が落札しているため。

委員 ・測量と同様に積算基準が公表されているから、計算を間違えなければ同じ答えになってしまう。本当に競争性があるかは疑問に思う。業者にするとそれが普通と思うかもしれないが、委員長が述べたように予定価格は決めておくにしても最低制限価格の決定は何か方法を変えた方がよいのではないか。舗装についても計算できるため、抽選での落札業者決定という話になるので、それが本当に入札かどうか疑問を感じる。

委員 ・ぜひ注意深く制度を運用していただきたい。

【その他】

委員 ・仕様書発注で落札率が 100% の案件について、前回の委員会で池田委員が取り上げ、私も抽出候補としたが、事務局からは対応を検討中とのことから除外した。その後の検討の進捗はどうか。

事務局 ・指摘を受けたことを踏まえ、県内 20 市の状況を調査した。当市を含め、6 市で仕様書発注に取り組んでおり、予定価格の設定方法としては、複数者から見積りを徴し、一番低い見積額を参考に予定価格を調整しているという状況であった。当市の庁内委員会においても話し合いを行ったが、これでよいとの結論には至らなかった。引き続き検討を進めたい。

5 その他

事務局 ・現委員の任期は 5 月 31 日までとなっており、2 年間務めていただいたことに感謝申し上げる。事務局としては所属する各団体に次期の選出について相談したところ、皆さまから次の 2 年間も務めていただけると回答をいただいた。それを踏まえて委嘱の手続きを進めたい。次回については 8 月の開催を予定している。

【終了】